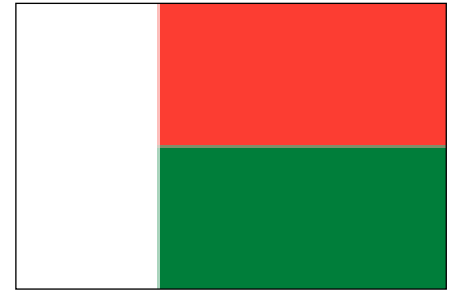


マダガスカル共和国話題集

【国旗】

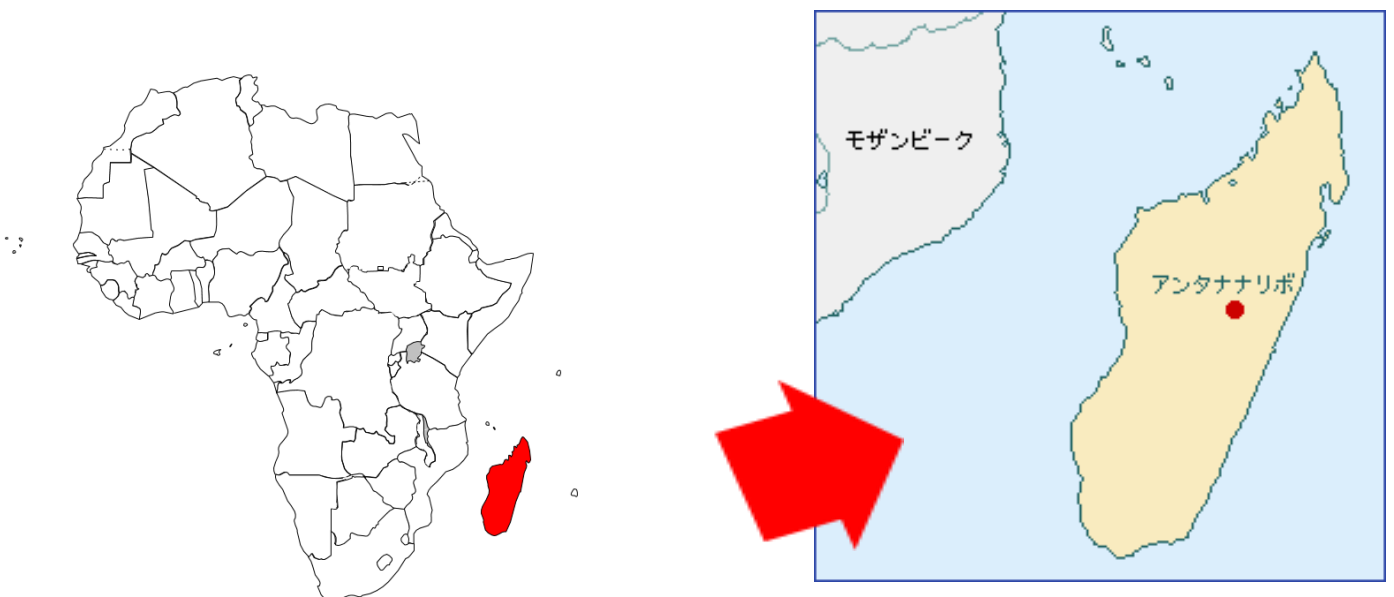
赤：主権
白：純粹性
緑：希望



マダガスカル国旗

【国土】

アフリカ大陸東海岸から 400km 東のインド洋西端に位置。面積は日本の約 1.6 倍 (58.7 万km²)。首都はアンタナナリボ。人口は 2,843 万人。



【宗教・言語】

- 国民の 4.5%が伝統宗教、85.3%がキリスト教、3%がイスラム教。
- アフリカ大陸系、マレー系の民族が存在。メリナ、ベチレオ他、約 18 の部族が存在。
- 公用語はマダガスカル語、仏語。

【国名の由来】

マルコ・ポーロが「東方見聞録」にて、アフリカ東海岸モガディッシュのことを「マルガシュ」と書き記した。1500年、ヨーロッパ人として初めてマダガスカルに渡来したポルトガル人船員ディエゴが、国王に報告した際、国王はこれこそ「マルガシュ」と思い、その名がもじられ「マダガスカル」と命名したとされている。

【マダガスカルのような呼び名】

- 「神の左足」：マダガスカル島は、左足の形をしているが、それは、神が地球を創造する際、まず左足を踏み込んだ場所がマダガスカルであったためと言われている。
- 「赤い島」：赤土で作った煉瓦で家を建て、赤土の土塀を築いており、また、所によっては、道も家も塀も赤一色の風景を呈しており、上空からみるとラテライトの赤い土で覆われている。未来がバラ色との意味もあると言われている。その昔、森におおわれていたことからマダガスカルは緑島とも呼ばれていた。森がだんだん減っていき、上空から赤い土地が見えるようになったからは「赤い島」との呼び名がよく使われるようになった。



【我が国との政治関係】

- 我が国は、1960年7月、マダガスカルを承認し、1968年にアンタナナリボに在マダガスカル日本大使館を開館。マダガスカルは、1969年に大使館を開設した。
- 1965年にチラナナ初代大統領が国賓として我が国を訪問。それから50年以上を経た2017年12月、ラジャオナリマンピアニナ大統領（当時）が公式実務訪問賓客として来日した。
- 2019年にはTICAD7のためラジョリナ大統領が来日した。
- 2022年にはTICAD8にラジョリナ大統領が出席した。

【主要な産業】

- 労働人口の約 83%が農業に従事（GDPに占める割合は約 25%）。コーヒー、バニラ、クローブ、ココアが主要換金作物。
- バニラの世界最大の生産国（世界の約 4割）であり、マダガスカル・ブルボンバニラはクリーミーで甘みがあり、なめらかで豊かな味わいを誇る。日本のバニラの総輸入量の約 9割がマダガスカル産。



- マダガスカル島の主要部はゴンドワナ大陸を構成していた古生代以前の楕状地。古い地層から成るため、昔から稀少な鉱物が産することが知られていたが、90年代には、ルビー、サファイア等の鉱床が相次いで発見された。

- ニッケルの鉱石から地金精錬まで一貫生産を行うアンバトビー・プロジェクトに住友商事が出資している。世界最大級のニッケル生産事業で、マダガスカルの外貨収入の3分の1を占める。マダガスカル政府から高く評価されており、2017年より流通している2万アリアリ紙幣（約700円）には、同プロジェクトの工場が印刷されている。



【文化】

- ファマディハナ（死者の弔い儀式）という中央高地民族を中心に行われる死者を弔う儀式がある。この儀式を経て初めて死者は先祖の仲間入りを果たすと言われている。
- 通常、埋葬の3年後に（死体を墓から取り出し、大気に触れさせ）祓い清め、新しい死装束に取り替え、先祖代々の墓に再度戻す。儀式は、数日間続く場合もあり、親族、友人、知人が一堂に会し、飲み食い、民族楽器に合わせ、歌、踊りの大宴会となる。しかしながら、最近ではキリスト教の普及や近代化によって、実践する人は減ってきている。

【豊かな動植物】

- マダガスカルは「ゴンドワナ」大陸分裂後に孤立し、他の環境から隔絶されたことから、動植物が独自の生態系を保存。マダガスカルの野生動物の70～80%は固有種とされている。
- 全原猿類の内4分の3がマダガスカル固有種といわれる。世界最小の霊長類であるコビトキツネザル、インドリ、シファカ、キツネザルなど。ハリネズミ類、マングース類なども生息。
- 歌でも有名な「アイアイ」は一時絶滅したとされていたが、1957年に再発見。絶滅危惧種。現地では、その独特な外見から不吉な生き物と見られることが多いが、日本では童謡で親しまれている。2001年、首都にあるチンバザザ動物園から、JICA支援を受けて誕生したアイアイ2頭（雌雄）が、上野動物園に寄贈された。

- マダガスカル島には約 6000 種の植物が確認されており、そのうち約 4000 種が固有種。特に『星の王子様』にも登場するバオバブは、世界で確認されている 8 種類のうち、6 種類がマダガスカル島だけの固有種。
- 300 種を超えるは虫類が確認されている。カメレオンの生息地としては世界でも有数で、その他にもカメ、ヤモリなど数多くの固有種をみることができる。



【米食文化】

- 米を主食としており、マダガスカル語で「食事をとる」ことは、「米を食べる (mihinam-bary)」と表現されるほど米が生活に根付いている。国民一人当たりの消費量は、日本人の約2倍の年間120キログラムで、農民の7割以上が稲作に従事している。
- 日本の七草粥を彷彿とさせる「ヴァリアミナナ」と呼ばれる米と菜っ葉を多めの水で煮た料理や、「ヴァリススア」と呼ばれるお粥などがある。
- ただし、最近では、米価格高騰に伴い、とりわけ貧困層に属する人々は、より安価なキャッサバ、とうもろこしを米の代わりに食する傾向にある。



【その他】

- マダガスカルの人名は基本的に長い。大きな特徴は、「家族名（姓）」は稀であること。同じ家族であっても共通の名前を持っていないこともある。その他、兄弟姉妹間で異なる「名前」を持っている例も多々ある。基本的に、個人の特徴、誕生時の出来事、親の子に託す希望、音の格好よさなどがもとになって付けられることが多い。近年ではフランス語の名前を持っているものも多い。
- 2005 年にニューヨークの動物園から逃げ出した 4 頭の動物たちがマダガスカルを舞台に繰り広げるコメディ・CGアニメーション「マダガスカル」が公開され、3本の続編が製作され日本でも公開された。

(了)